

◎ 県内の景況(情報連絡員報告から)

<2月> 業界の景況(前月比DI値)

新型コロナウイルスの影響により、景況感が急激に悪化した。

情報連絡員報告をもとに景況についてDI値を作成しました。業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成し、その基準は右記のとおりです。

30以上	10~30未満	10未満 ~△10	△10超~ △30未満	△30以下
				

業種		業界の景況(前月比DI値)			
		令和元年11月	令和元年12月	令和2年1月	令和2年2月
製造業	食料品製造業	 0	 0	 △ 33	 △ 67
	木材・木製品製造業	 0	 0	 0	 △ 100
	印刷・出版 同関連製造業	 0	 0	 △ 100	 △ 100
	窯業・土石製品 同製造業	 0	 0	 △ 33	 △ 33
	鉄鋼・金属 同製造業	 △ 33	 △ 33	 △ 33	 △ 33
非製造業	卸売業	 △ 40	 △ 20	 △ 50	 △ 100
	小売業	 △ 67	 △ 50	 △ 50	 △ 83
	商店街	 △ 33	 △ 33	 △ 67	 △ 67
	サービス業	 △ 33	 △ 33	 △ 33	 △ 67
	建設業	 △ 17	 0	 △ 17	 0
	運輸業	 0	 0	 0	 0
その他	 0	 0	 0	 0	

各業界の詳細(前年同月比、業界の動き)が必要な方は本会までご連絡ください。

2. 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
味噌醤油業界	<p>新型コロナウイルスによる影響が次第に深刻さを増しており、2月の売上状況は非常に厳しい場面を迎えつつあり、これから益々深刻な状況になるのではないかとと思われる。一方では食品衛生法の改正に伴い、食品表示基準の変更を4月1日から実施しなければならないため、現在、全組合員が忙しく変更作業を行っている状況である。当組合としても、全組合員が間違いのないように徹底指導管理をしている所である。</p>
水産練製品業界	<p>新型コロナウイルスの影響により、工場内で使用するマスクが不足しており、問屋にも在庫がない状況である。</p> <p>この秋に使用するおでんセットの具材(もち巾着)を中国から輸入しているが、その工場が未だ稼働しておらず、この先輸入出来るかどうかもわからない状況である。その他、中国からの冷凍野菜など、中国側での輸出が止まっている。</p>
酒造業界	<p>清酒の出荷数量が漸減している中、新型コロナウイルスの侵入・感染拡大という状況で、料飲店での消費に影響がでている。料飲店の落ち込みは、そこに納品する酒販店ばかりでなく食に関わる全業種に影響する。料飲店等が急激な資金繰り悪化に対応できなければ、納入業者に連鎖しかねない。2月段階では深刻な事態にはなっていないが、この状況が続くと3月はかつてないほど厳しいことになりかねない。</p>
木材業界	<p>県内の1月住宅着工数は920戸で、前月比28%減少、前年同月比は35%と大幅減少した。月間千戸を下回ったのは平成23年5月以来8年8ヶ月ぶりである。全国ベースでも総数では平成22年5月以来の61,000戸割れ。持ち家は昭和40年1月以来55年ぶりの2万戸割れ。昨年9・10月の台風等の災害や景況感により、住宅取得マインドが減退したものか。</p> <p>原木は暖冬で出材が順調、価格は横ばい。製品の価格は横ばいが続いており、荷動きも穏やかである。合板は原木の入荷が順調で、出荷も堅調である。今後は新型コロナウイルスの影響により、住宅着工数の減少が加速される事や、スギの輸出減少による需要バランスの崩れなど、木材業界にも様々な悪影響が危惧される。</p>
印刷業界	<p>新型コロナウイルスの影響を今後懸念している。</p>
生コンクリート業界	<p>2月の出荷量は、前月より31.5%、前年同月比も24.9%増加した。地区別では、仙台、石巻、大崎、気仙沼、県北が増加し、県南では減少が続いている。</p> <p>昨年4月から2月までの年度累計では11.3%増加となり、仙台は民需、石巻、気仙沼は震災復興関連、大崎は特需が貢献している。</p> <p>なお、最近の調査で仙台地区の生コン価格が下がった。</p>

コンクリート製品業界	<p>組合員の1月の出荷量は、前月比95%であった。前年同月比でも79%、累計で76%と昨年の実績を下回った。</p> <p>生産量は、前年比89%、前年同月比でも77%であり、年度末に向けてさらなる出荷促進、生産、在庫管理が重要な時期である。</p> <p>(※コンクリート製品業界は、とりまとめ時期の関係から1ヶ月遅れの報告です)</p>
機械金属業界 A	<p>昨年10月の消費税増税の影響からか、この数か月、全体的に前月比・前年同月比とも停滞もしくは減少・悪化傾向が続いている。さらに、ここに来て新型コロナウイルスの経済への影響も懸念されるところである。</p>
機械金属業界 B	<p>新型コロナウイルスの影響を受け、売上が減少した。</p>
各種卸売業界	<p>新型コロナウイルスの影響で、業界の景況感が悪化している。</p>
再生資源業界	<p>2月の鉄スクラップ市況は、1月の下落局面が2月中盤までは継続となったが、後半より関東以西でやや値下げすぎの反動が見られたのと、発生減による供給不足が見られ、一部反発した。3月は鉄鋼メーカーの在庫調整もあり、大幅な値上げは期待できないが、小幅な反発が期待される。</p> <p>古紙はダンボール古紙、雑誌・雑紙古紙の荷余り感も継続し改善の兆候はないと思われる。納入期限と価格の下落のダブルパンチにより引き続き厳しい状況が続くと思われる。</p>
繊維業界	<p>2月に入り新型コロナウイルスの影響が出始め、下旬は特に学校全休から極端な落ち込みが始まった。</p> <p>マスクや除菌効果商品の要望が多く、対応しきれていない。今後の動向が心配である。</p>
ゴム製品卸売業界	<p>2月は前月同様に稼働日数が少なく、昨年からの米中・日韓の貿易摩擦の影響からか相変わらず低調であったが、新型コロナウイルスの影響でますます経済へのマイナス影響が加速して、景況感は最悪の状況になりつつある様に感じる。今後の状況が見えないまま、この状況が継続する事になるとどうなるのか非常に不安である。</p>
鮮魚卸売業界	<p>2月中旬までは、一般来場者とインバウンド来場者があり、販売の落ち込みも2割程度だったが、月末にかけて一気に減少に転じ、売上が4割以上の減少となった。</p> <p>新型コロナウイルスの影響がこれほどまでとは、予想だにしていなかった。</p>
鮮魚小売業界	<p>魚の入荷が極端に少なく売上が伸ばせない。また、新型コロナウイ</p>

	<p>ルスの影響で料理店や納品先のキャンセルが続き、最悪の状況になりつつある。</p>
青果小売業界	<p>前月に引き続き暖冬のもと農作物の先進出荷となっているが、新型コロナウイルスの影響も加わり、野菜全般の価格は例年にない程の値下がりとなった。一方、国内果実と輸入果実は一ヶ月を通し、強もちあいで推移した。価格安であっても野菜の消費は伸びず、単価高の果物には手を出さないという状況で、売上高も利益も伸びない厳しい月であった。後半からは、新型コロナウイルス感染拡大の報道がある度に客足は遠のき、ホテルや飲食店に納品している組合員への注文も減少し始めている。</p> <p>終息が見えない新型コロナウイルスのため、3月以降の商売がどうなるのか不安を抱えている状況である。</p>
食肉小売業界	<p>新型コロナウイルスの影響で売上が減少している。</p>
家電小売業界	<p>2月に入り寒さの到来で暖房器具が好調、新生活商品の需要も高まっている。電器店では省エネ性が高い事などを丁寧に説明し、買い替えだけでなくリフォーム商材などのPRにも注力した。</p>
石油小売業界	<p>原油相場は、新型コロナウイルスの感染被害拡大で世界経済減速への懸念から、原油価格は値下がりしている。現在、新型コロナウイルスの影響が、中国本土以外の世界各国で急速に広がりを見せていることから、人や物の移動がさらに制限されることが予測され、石油需要は一段と減少傾向になると思われる。引き続き新型コロナウイルスの状況や石油輸出国機構（OPEC）の協議に注視する必要がある。このような先行き不透明感が強まる中、新型コロナウイルスの終息への期待感で原油が一時上昇したが、小売販売価格は小幅な値下がりが見込まれる。</p>
花卉小売業界	<p>当月売上については、前年同月比 101.4%とやや前年を上回った。しかし、本年がうるう年で昨年より営業日数が1日多いことを考慮すれば、実質の前年同月比は昨年を下回ったものと考えられる。</p> <p>当月は月間を通し降雪もなく安定した穏やかな天候であった反面、生花等の発育が例年より早まったことから、春彼岸需要の供給が早まり、供給過多と安値取引の状況も見られた。また、下旬より新型コロナウイルスの影響が出始めて、行事や催し物のキャンセルや縮小に伴う売上減少が見られた。この影響は翌月以降更に拡大し、業界としても今後の大きな不安要因となっている。</p>
商店街	<p>(仙台地区A商店街)</p> <p>労働力不足が課題となっており、消費増税の影響もある。特に高額商品の買い控えが見られる。</p> <p>新型コロナウイルスの影響により、来客数及び売上が減少してい</p>

	<p>る。</p> <p>(仙台地区B商店街) 連日の新型コロナウイルス報道の影響か、商店街の人出が確実に減少し、物販・飲食ともに売上が伸びない。飲食店からは人手不足も重なり、閉店の声が聞こえている。</p> <p>(大崎地区A商店街) 2月上旬の商況は先月に引き続き厳しい状況であったが、中旬以降新型コロナウイルスの影響により、いよいよ縮小している。商店街の人通りはめっきり減少し、シネコンでの入り込み客数も3割は減少している状況である。</p>
自動車整備業界	<p>持込車検台数は5%減少した。新車販売も普通車(登録車)10.7%、軽自動車9.6%、全体でも10.3%とそれぞれ5ヶ月連続で減少となった。消費税増税や自然災害などによる消費マインドの落ち込みが続いたものと思われる。更に、新型コロナウイルスへの懸念から、各種イベントの中止、特に2年に一度の「東北モーターショー」の中止も影響している。国土交通省は、年度末の繁忙期は不特定多数の申請者が全国の運輸支局に集中することによる新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、自動車検査証の有効期間を延長すると発表した(有効期間の満了日が2月28日から3月31日までの自動車について、全国一律に4月30日まで延ばす)。</p>
ソフトウェア業界	<p>ひと月ほど前まで対岸の火事とみていた新型コロナウイルスが猛威を振るい、まだまだ終着点が見えてこない。その影響で各種展示会・会議等人の集まるイベントは軒並み中止や延期、そして開催の自粛要請。学校関係もドタバタの中、休校を迎え人の動きが全国的に抑えられているため、小売店等の業績も低調になってきているようだ。もう少し先には「設備投資の抑制」という響きが聞こえてきそうである。また、東京オリンピック・パラリンピック開催による景気拡大は、風前の灯火であると感じる。</p>
警備業界	<p>新型コロナウイルスの影響が警備の現場にも少しずつ出始まっている。千葉県では60代の男性警備員が感染した。感染経路は不明との事であるが、建設現場に勤務という事から年度末の繁忙期で疲労が溜まっていたのかも知れない。交通誘導警備員は高齢者が多い事から、感染拡大の可能性が高いかも知れない。また、東京マラソンも一般参加が取り止めになった事から、警備体制が縮小された。今後色々な形で警備への影響が心配される。これから春先にかけて各方面でイベントが例年多くなるが、今年は取り止めのケースが増えている事も心配だ。</p>
湾岸旅客業界	<p>2月は下旬半ばまでは堅調に推移したものの、月末近くになると特</p>

	<p>に新型コロナウイルスの影響が顕著に表れるようになり、インバウンドの入込が激減、国内客の客数も減少、売上額は前年同月比で1割程度減少した。旅客数はキャンペーン料金効果で増加した。</p>
観光業界	<p>新型コロナウイルスの影響で予約のキャンセル、予約控えが大変多く、約 93,000 人にのぼる。これにより、事業の継続が困難な施設も出てきている状況である。</p>
シーリング業界	<p>年度末の完成に向けて、新築、改修工事共にピークを迎えている状況である。依然として過密工程で、人員不足を前月同様に組合所属業者同士の横の繋がりで対応している。この先の見通しは、年度跨ぎの物件も例年よりやや多いようである。事業所間のバラつきはあるものの、業務量の豊富な事業所がそうでない事業所をサポートしている。</p> <p>これからの景況見通しの不安材料としては、段階的な週休二日制の移行に伴う労働時間の減少が収入に直結することである。また、底の見えない新型コロナウイルスの影響がどの程度影響してくるのか、不安の声が多い。諸々の影響を考えると適正価格の益々の交渉が重要になる。</p>
管工事業界	<p>新型コロナウイルス感染症が全国に広がり、県内でも感染者が確認された。</p> <p>工事に必要な機材等の納品に支障が出てきており、経済への影響も含めて今後の動向が危惧される。</p>
建設業界	<p>東日本大震災から 9 年、事業量についてはピークアウトし収束に向かっている。一方で、自然災害が頻発・激甚化しており、令和 2 年度まで別枠での減災・防災・国土強靱化の 3 ヶ年緊急対策が講じられているが、令和 3 年度以降の未来への投資となる社会インフラの安定性・継続的な取り組みが必要不可欠である。</p>
板金業界	<p>2 月の景況については、一般住宅・工場建築とも件数減少により、売上・収益とも減少した。また、新型コロナウイルスは早く収束して欲しい。</p>
タクシー業界	<p>実車率及び輸送収入も前月とあまり変わらない。</p> <p>LPG 価格が若干値上がりした。</p>
倉庫業界	<p>前月比の売上高は減少している。品目別では、米等農産品、金属製品、化学薬品が入・出庫量ともに増加した。出庫量では飲料等食料工業品が増加したが、その他の品目は、入・出庫量とも減少傾向にある。</p> <p>前年同月比の売上高は微増である。品目別では、金属製品、紙・パルプが入・出庫量ともに増加しており、入庫量が増加したのは米等農産品、化学薬品で、出庫量が増加したのはガラス製品である。他の品目は入・出庫量とも減少傾向にあり、保管残高は微増傾向にある。</p>

不動産業界	単身用の賃貸仲介については、2月下旬にかけ新入学の学生を中心に問い合わせが多くなった。反面、新型コロナウイルスの影響か、法人の異動による問い合わせで転勤時期を繰り下げるような動きが多くなった。
-------	--